

# 8月報(2020年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26  
☎[084]923-0614 FAX [084]923-0615  
e-mail :fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

## 主任司祭便り

安坂神学生の今後の神学院長期休暇中の帰省先として、私達の小教区である福山教会が選ばれました。彼は三原教会出身であり実家もそちらにありますので、通常の意味での帰省先はそちらなのですが、実際の小教区司牧に関わる体験など教区内での司祭養成の場として福山教会に滞在することになります。

皆様の小教区共同体が選ばれたことは、色々とお負担をお掛けすることにもなりますが、どうかとても名誉なこととお考え下さい。司祭養成は神学校という空間だけではなく、その全期間を通じて信徒の方々との関わりの中でもなされていきます。そしてそれには最善の場を求められるのです。彼にとって今、福山教会で過ごすことが意義のあることなのです。皆様の小教区共同体が、神学生を預けるに相応しい場であると司教様によって判断されたのです。

さて、そこで司祭養成の場となる福山教会の皆様をお願いしたいことがあります。それは先ず「神学生を遠慮なくお使い下さい」ということ、次いで「神学生に優しく接してあげて下さい」ということの二つです。

## I. 神学生を遠慮なくお使い下さい

休暇中ですので休むことがとても大切ですが、同時に何もすることがなく過ごすのは、神学生の霊的／精神的な健康面で害悪ともなりえます。また司祭養成においては自発的に信徒の方々に関わり、司牧的に成長することが求められているのですが、実際は神学生にとってそれが難しいこともあります。

皆様に誘われて活動に関わったり、依頼された仕事をこなす中で、自分自身が司牧的に奉仕する喜びを見出し、司祭職に向けて自らのアイデンティティを確立し、多様な活動を参考にし将来自分が自発的に活動する際のモデルを描いていくこととなります。先ず与えられたものを消化して、自分の糧としていくのです。

そもそも神学生にとって教会の諸活動に関わることは、むしろ喜びとなることの方が多いのです。そこに喜びを見出していなければ、召命の道を歩み出していないでしょう。自分が必要とされ、なんらかの役割を果たしていける喜びを、神学生に与えてあげて下さい。

## II. 神学生に優しく接してあげて下さい

福山教会が養成の場となるとは言っても、まず何よりも優しく接するところから始めてください。食事や健全な遊びにお誘い下さってもいいでしょう。外出や外食も、信徒の方々からのお招きであれば基本的に問題はありません。

甘やかしてはいけないとお考えになるかも知れませんが、彼は神学生という弱い立場で、広島教区内で最も厳しい主任司祭の指導監督下に常時置かれることとなります。そうでなくとも

神学生にとって滞在先の主任司祭とは、自分の進級や叙階に際して意見を述べる畏るべき存在です。そんな主任司祭と四六時中行動をともにし、一挙手一投足まで見られているのですから逃げ場がありません。とてもかわいそうでしょう。

と言って私は一切手を緩める気はありません。厳しいことをたくさん言います。どうぞ皆様が、彼の逃げ場となってあげてください。信徒の方々と共に過ごす司牧的活動を通じて、愛された体験を積み、将来喜びをもって他の人々に仕える司祭となるよう育てて下さればと思います。

## 7・19 「そらまめ子ども食堂」支援の為の街頭募金 野田茂生



今回は中高生会も加わり、30人を超える大所帯となりました。募金を呼びかけると子ども達の元気な声が辺りに響きます。新型コロナ感染拡大下において人通りはさびしかったものの、多くの方が立ち止まって応じて下さいました。集まった59,446円は、近いところにも目を向けようということで、地元の子ども食堂へ贈ることにしました。支援ありがとうございました。

## 7・11～12 久保裕己神父さま来福初ミサ&侍者デビュー



### 侍者デビューした子どもたち

- ・大内涼子
- ・大内 理
- ・山口寧々
- ・藤岡祈里
- ・武田鈴彩
- ・城上さな
- ・鴨川優空





## お祝いを受け、喜びの久保裕己神父さま&次世代への祝福



南相馬便り ⑰ 2020年7月 援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子

コロナ禍も少し落ち着き、平常生活が戻ってくると、いつの間にか真夏を迎えていました。梅雨を通り越して猛暑日も。幸いここ浜通りは福島市や会津ほどの高い気温には今のところならなくて、過ごしやすい所です。



これからは学校も社会も立て直しの大きな努力を強いられる時ですね！！

5月末に、修道院から遠くない小高区の浦尻という地域に行ってきました。ここも津波で全部流された地域です。海のすぐそばの高台に減容化施設というのがあります。津波や原発の被害で解体された建物や樹木などの容積を減らすための焼却施設です。焼却した時に放射性物質はどうなるのか??のまま、地元の反対を押し切って建てられ、今、その役目を終えて施設そのものが解体中です。燃やした灰の放射線量が国の基準値以下のものは、

道路工事に使ったり、テトラポットの材料になったりするようです。基準値以上の灰は、中間貯蔵施設に運ばれます。道理でその周辺の地域の草ぼうぼうの畑の中にテトラポットの山があります。きっと近くにテトラポットを作る工場があるのでしょう。

帰宅困難地域の解除があっても、この施設がある限りこの地域の人たちの帰還は進みません。この施設の山の裏側に自宅のある人に聞きました。その方の家は高台にあったので、津波の被害は免れました。しっかりとした大きな家で、地震の影響もあまりないようです。雨漏りの跡のような筋があったので、「雨漏りしたんですか?」と聞くと「ハクビシンや動物たちのおしっこ!」と。部屋数も12部屋もあるそうです。親戚中が集まるとそれでも狭いと言われます。この地方の家は大きいと感じます。それもそのはず農業が主ですから、大家族で暮らすのが当たり前なのです。立派な家ですし、以前彼女に聞きました。「小高にお家があるから、帰られますか?」と聞くと、「帰れねえ!ここに来ると、あの日を思い出す。あの日、自分が聞いた叫びに耳をふさいだ、見ながら見殺しにした、助け



る余裕がなかった、家族の安否のことしか頭になかった、そんなあの日のことが、あの景色を見ると今もフラッシュバックでよみがえる。」と。日頃、明るくふるまっておられるのに、地震で電柱が揺れると思ひ出す。とも言われます。どんなに大きなショックだったか、こんなに前向きに生きておられる人が、まだまだトラウマを抱えて生きておられるのです。それでも最近では地震・津波・原発事故の被災を、人生の一つの通過点として肯定的に捉えられるようになってきたとも言われます。行きつ戻りつしながら、10年の歳月を経てもなお消えない傷をどうしたら癒やすことができるのか？ 私たちに何ができるのか、無力感を感じる時があります。私たちにできることは、神様が共にいてくださることを、私たちが共にいることで、ただただ共に生きることで証していくこと。これしか出来ないのです。これを生きることこそ望まれていることと思います。



また別の男性と、「今年は田植えが済んだ田んぼが多いですね。緑のきれいな田んぼを見ると心が癒されます。」と話した時、「うちはできん」「どうして?」「うちの田んぼは、6号線より南で、浜に近いところで開発にかかって…」と。私は言葉を失いました。開発にかかるとは、きっと東電あるいは国の太陽光発電設備の計画にかかったと言うことではないかと思ひます。前の号で書いた黒い海です。太平洋を眺めることのできる美しい自然が、この黒い波に

覆われている光景は、見慣れることはできません。通るたびに心が痛み、大地のうめき声を聞くのです。もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

### 8月・9月の行事予定

8 月		9 月	
5 (水)	広島教区平和行事 (広島) 日本カトリック平和旬間 (15日まで)	6 (日)	被造物を大切にす世界祈願日
6 (木)	広島教区平和行事 (広島)	20 (日)	教会敬老会
8 (土)	福山空襲追悼集会(6時ミサ後)	21 (月)	「広島教区の日」 金銀祝
15 (土)	聖母の被昇天	27 (日)	世界難民移住移動者の日
22 (土) ~ 23 (日)	白浜司教様公式訪問 堅信式		
30 (日)	お祈りの会 2時 (プロテスタントの方々と)		

#### 【投稿依頼】

皆さま、ご承知の通り福山教会に 2018 年 3 月から月報が出されるようになりました。これは、従来の週報では伝えきれない教会の大切なこととお知らせしようとするものです。併せて、これは、私たち信者の交流を図るものですから、広く皆さまの信仰体験、行事の感想、思い等を募集しています。お待ちしております。書くこと、読むことにより私たちの信仰を広げ、深めましょう。

月報作成委員会